

下條村



道外研修視察報告

平成28年10月25日～27日
長野県下條村・軽井沢町



◎長野県下條村

【広報副委員長 石井喜久男】

下條村は、明治22年4月1日に睦沢村、陽阜村が合併し、以後127年単独村で今に至っている。位置的には、長野県の最南端下伊那郡のほぼ中央に位置し、標高332mから828mの間に34の集落が散存する村である。

アクセスは、飯田市街や中央道飯田インターから車で約20分の距離で、平成20年4月に三遠南信自動車道天竜峡インターが供用開始、このインターから車で6～7分の距離で、人口は約3900人と妹背牛町より人口が若干多いが高齢化率は32・55%と本町の37・4%と比較すると4・85%低い状況にある。

下條村の若者定住促進住宅建設であるが、平成2年度から平成8年度までは一戸建て住宅54戸、平成9年度から平成18年度までに124戸を建設、合計178戸を建設、入居条件としては、子供がいるか、これから結婚する若者か、このほか、地域に溶け込むた



めの村行事への参加や消防団への加入など、地域とのふれあいを大事にした村民自らの行動力に感心した。

また、資材支給事業だが、地域住民の生活環境の整備するために、村民自らが施工する工事に関し、村がその資材を支給するという事業で、地域が一体となり村をささえている、そして、まず、行動し改善し良いシステムを、作っていく事だと思つとともに、行動なくして進歩なし、地域住民が地域を守ることの重要性を改めて感じた。

本町も少しずつでも町民が住みよい町にするために、さらなる努力が必要であると思

うが、今回の研修で得た事を、町民とともに実行したい。

◎長野県軽井沢町

【広報委員 広田 毅】

軽井沢町は、長野県の東端・群馬県境に位置し、浅間山の南東斜面に広がる高原の町。面積の半分が国立公園と国定公園内である。

気候は、避暑地にふさわしく冷涼で年間平均気温は8度前後で夏でも平均気温は20度位で、冬は真冬日が多く零下15度近くになる日もあるが、降雪量は比較的に少ない。

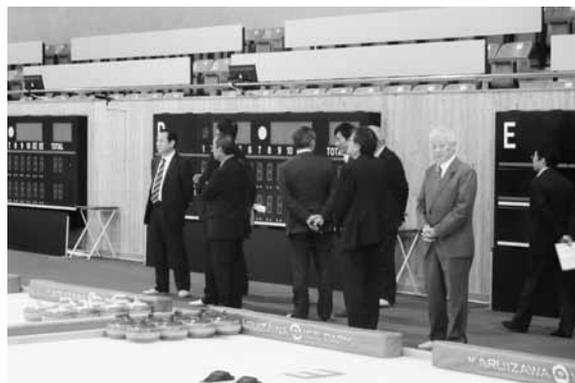
アクセス、産業構造については、東京より長野新幹線で約1時間、車で関越・上越道1時間40分で結ばれ東京近郊迄通勤圏となっており、観光保健休養地として発展してきた町である。

人口は28年4月現在で2万119人、年間の観光客数は840万人にも上る。また、別荘も非常に多く、総体で1万5千969戸となっており、軽井沢町の一般会計127億円の内約59億円が別

荘の固定資産税収入で普通交付税不交付団体でもある。

このことから分かる様に、産業構造は3次産業が中心で、本町とは財政面、産業構造も異なる町である。今回、軽井沢アイスパーク（カーリングホール）を訪問した主な目的は、前段の様に大きな違いのある町のカーリングホールの現状、まちづくりの中で果たす役割、課題などを学び本町のまちづくりに活かしたいとのことからである。このアイスパークは、通年型屋内プールや体育館など7つのゾーンに分けられた風越公園の中にある。

風越公園整備事業は軽井沢唯一の総合公園として、69億円巨費を投じて平成22年より整備を開始、冬季スポーツ競技人口の確保、普及強化、観光振興の一部としてカーリングホールが完成した。国際競技開催可能な6シートの通年型カーリングホールであり、省エネルギー及び環境負荷に配慮し夏期は地中の水を利用し、冬季は地熱を利用した地中熱ヒートポンプ方式を採用、給湯空調の10%を賄っている。



利用状況については平成27年度実績で3万6千966人、利用料は約3千万円、月別の利用数では8月が冬季よりも多くこのことから避暑、観光、保養を兼ねた利用と推察できる。

カーリングホールも含めた風越公園全体の施設が集約しているメリットとしては、①コストが削減できる②いろいろな競技の観戦ができ、人も集まり賑わいを創出できる。

課題としては、①町内の宿泊及び飲食の料金が高く、近隣市町村を利用する人もいる②町内外の利用者比が5対5

のため、町内者の利用率を向上する。宿泊については、本町と共通した課題であると思う。本町は宿泊施設が少なく、宿泊を伴ったカーリングホールの利用者が他市町に流れているが、この課題を克服する為、民泊の体制づくりを模索する。一方では宿泊の多くは他市町に願ひ、他市町の宿泊施設と連携しながら新規のカーリング体験者創出を図り利用率を高めるなど違った視点からの取り組みが必要と考える。

カーリングホールは、全国に数か所しかなく、本町に希少なカーリングホールがあるということは、あらゆる面で優位性があると言える。軽井沢でも考えられているように、個々の施設利用策について独立した考え方をするのはなく、本町であれば、うらら公園ゾーン（ペベル・体育館なども含む）の施設として相乗的な使い方をすることによって、まちづくり、人づくりに大きく寄与するものと考えられる。今回の視察研修で得られた知見を、今後の議会議員活動に

活かし、まちづくりに繋げていきたいと思う。

◎全視察を通して

【広報委員長 鈴木正彦】

下條村は陸の孤島と呼ばれるような山の中の村から、奇跡の村と呼ばれるほどの財政健全化に成長した村である。

その第一歩は6期勤めた前町長の「自治体の体質を強くできるのは、住民であり、住民の責任でもある。住民が自治に是々非々の姿勢で積極的に関わり、住民の力で自治体の



力を引き出さなければならぬ。」との持論から、当選当初に行ったのが、副村長以下全職員を民間スーパーへの派遣研修による意識改革であった。同村では徹底的な行政改革により無駄をなくし、その財源を投資的資金として、少子化対策、資材支給事業等の施策に有効活用しており、今後のまちづくりに多いに参考すべきと感じた。

また、全国有数の高い出生率を維持している村でもある。特に若者定住住宅においては、国・県の補助制度に頼らず建設し、所得制限はなく独自の募集をしており、その条件の中には地域行事への参加や消防団への協力など、行政サービスを行う上で地域住民との信頼関係が非常にしっかりとしていると感じるところである。

次に軽井沢町風越公園内にある通年型カーリングホールであるが、スポーツ公園というすばらしい環境の中、本町のカーリングホールとはスケールの違う施設であった。スポーツとして、レクリエーションとして、

さらにスポーツを通じたコミュニケーション、ビジネス研修としてカーリングプログラムを提供し、個人、企業等に体験してもらうなどの企画があり、法人向けレクリエーション、社員旅行、企業運動会、ビジネス研修に利用していることには感心させられ、本町のカーリングホールをはじめ各施設も、まだまだ活躍する場があるのではないかと、地域資源として有効に利用できるのではと思う。今後のまちづくりのためにも、今回の視察研修で得たことを参考にしながら活動していきたい。

